

葛生石灰岩と その周辺の化石について

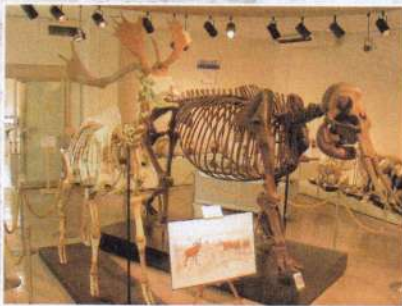


佐野市の北東に分布する葛生石灰岩は多くの化石を産出します。(この石灰岩層のことを「鍋山層」と呼んでいます。)

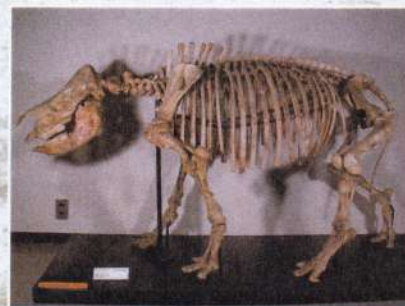
フズリナ

葛生の石灰岩は2億7千万年前に古生代ペルム紀という時代に生きていた生き物がつくりました。それは、今の太平洋のような大洋の赤道付近にあった、小さな海山だったと考えられています。これがプレートテクトニクス(地球の表面は絶えず動いており、その動きのことを言います。)によって運ばれてきて、現在今の場所に露出しています。

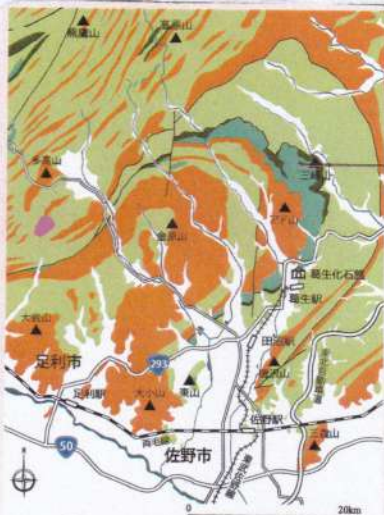
また、石灰岩に発達する隙間や割れ目などの洞くつからは氷河期(氷期と間氷期を繰り返している時期)のうち、約50~5万年前の哺乳類動物の化石が多く出てきます。これらは過去の環境を知ることができることから、戦前から研究がされてきました。



ヤベオオツノジカ ナウマンゾウ



ニッポンサイ



石灰岩・苦灰岩

この地層から たくさんの化石が
産出しています。

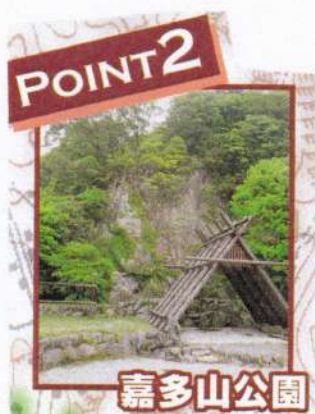
■ 石灰岩・苦灰岩 ■ 三疊紀チャート ■ 玄武岩類
■ 花崗岩 ■ 中古生界 ■ 凝灰岩 ■ 河川
■ 断層

佐野市葛生化石館

○ いよいよ化石探しの旅が始まる



葛生駅から10分程で、この化石館に着く。入館無料。葛生で産出する石灰岩は古生代プルーム紀のものだ。その中に含まれる化石がフズリナだ。みごとな板状のフズリナの化石と拡大したフズリナの模型は必見。ウミユリは、今も深海に生息する「生きた化石」だ。アンケートに答えると、フズリナの化石をもらえる。



公園の足下には、石灰岩が多数落ちている。よく探せば化石を見つけることができる。丸太を組み上げた「原人ステージ」の周辺では、フズリナやウミユリの化石が入った石灰岩が敷き詰められている。



喜多山公園のすぐ上にあるのが、この展望台。巨大な筒状のものから白い煙が真っ直ぐに上がっている。石灰岩を焼いて、加工しているのだ。その臭いだろうか。街全体に焦げ臭い臭いが漂っていた。以前は、石灰岩の粉が舞い降りて、どの屋根も白くなっていた。が、今は、運び出す時に、ダンプを洗浄してから走らせるなどの対策をしており、「昔のようなことは無い」と、化石館の学芸員は話してくれた。



ここは秋山川の河原。いよいよ楽しみにしている化石探しだ！ハンマーを取り出して、石をコンコンとたたき始めた。「割れたー」と、断面をのぞく。細かい粒がきれいに並んでいる。次のも同じようだ。砂岩が多いことに気づく。層と層の間に、落ち葉の化石のようなものを見つけた。怜奈さんは、石の上に産み付けられた小さな黒く円い卵を見つけた。何の卵だろう？ こういう発見も、楽しみの一つだ。フズリナの化石は、残念ながら見つからなかった。水をかけると、化石が白く浮かび上がってくるという。次回に期待しよう。

POINT5



葛生人骨出土跡公園
(葛生原人出土跡)

中学生が人骨を発見した。

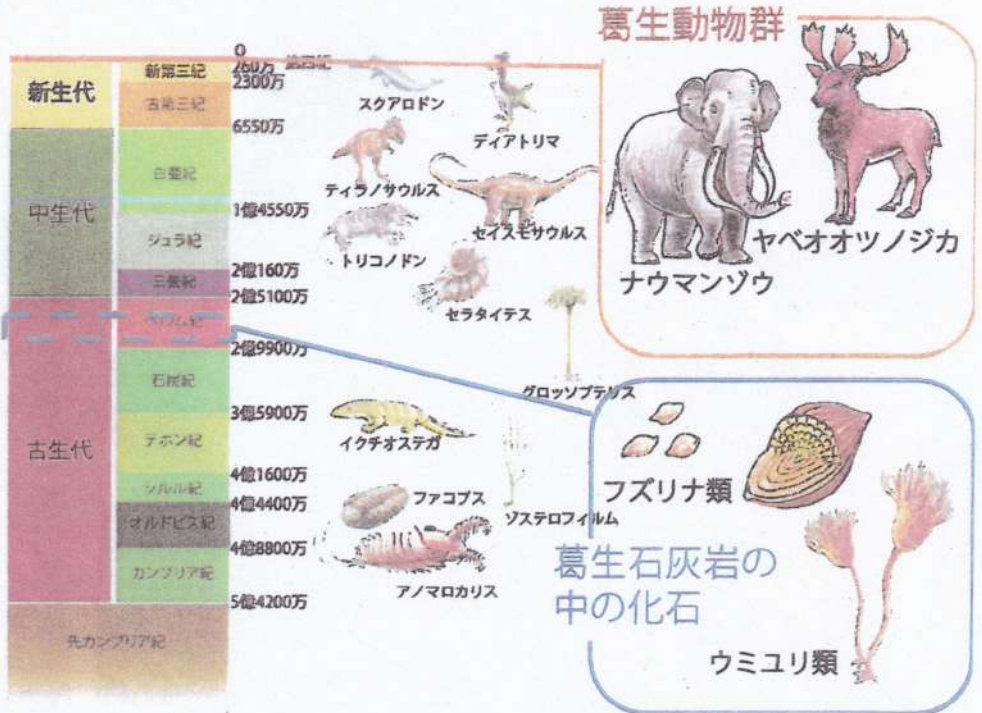
「旧石器時代（38000年前～16000年前）の骨だ！」「原人がいたのだ！」と騒がれた。

よく調べてみると、14～17世紀（室町時代～江戸時代始め）の現代人のものと訂正された。

その洞窟では、動物の骨も多数発見されたという。

回りには、大きな石灰岩の露頭がある。

地球の歴史と葛生の化石



6. ふり返りの感想

○ かせきをさがすのが、とてもたのしかったです。

ハンマーで、コンコンが
むずかしかったです。

フズリナの かせきコンコンと カワラタケ

年長

父

○ 化石館で、昔は像と鹿が同じぐらいの大きさだったので、びっくりしました。

わってみるときれいな断面の石がたくさんあって、おもしろかったです。

てんぼうだいからのけしきが、きれいでした。

自然の中 すべるすべり台 たのしいな

鹿浜菜の花中1年

○ とてもきれいな自然に触れられて、いやされました。

化石館に行ったり、河原で石を割ったりして、これまでの地球の時間の経過を感じられて、わくわくしました。

青空と 水面に響く 石の音

高校2年